

令和4年度第1回小金井市青少年問題協議会専門委員会 会議録

日 時 令和4年5月26日(木) 午前10時～午前11時

場 所 小金井市商工会館2階小会議室

出席委員 6人

委員長 浅野 正道 委員

副委員長 金井 誠 委員

委員 黒須 よし江 委員 小山 茂 委員

鈴木 忠良 委員 渡辺 大介 委員

欠席委員 5人

委員 佐藤 義明 委員 後藤 幹芳 委員

八木 尚子 委員 倉持 伸江 委員

大内 麻裕 委員

事務局 児童青少年課長 深草 智子

児童青少年係長 鈴木 拓也

児童青少年課主査 前田 裕女

傍聴者 1人

1 開会

深草課長

まだ皆さんおそろいではないようですが、時間になりましたので、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。

私、事務局の児童青少年課長の深草と申します。4月から児童青少年課に着任してまいりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

すみませんが、ここから着座にて進めさせていただければと思います。

開会に先立ちまして、事務局から何点か御案内させていただきます。

本日の専門委員会については、佐藤委員、八木委員、大内委員から事前に欠席の連絡をいただいております。後藤委員と倉持委員に関しましては、少し遅れての出席になるかと思いますが、先に進めさせていただきたいと思います。

次に、本日の配付資料についてですが、次第のほか、次第の下部に配付資料の一覧を掲載しておりますので、御確認いただき、不足がありましたら事務局へお申し出ください。

次に、委員及び事務局職員の変更についてです。この4月より、東京都多摩府中保健所から選出の委員に変更がありましたので、御紹介させていただきます。

新たな委員は、渡辺大介委員となります。本来であれば、委嘱状を市長から直接交付をさせていただくところですが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、簡略化し、机上での配付をもって、委嘱状の交付に代えさせていただきますので、御了承ください。

なお、任期は前任委員の残任期間となります。

それでは、簡単に渡辺委員から一言、御挨拶をお願いしてもよろしいでしょうか。

渡辺委員

多摩府中保健所の渡辺と申します。今年4月から着任しました。

これまで、どちらかという薬剤師関係の仕事をしていましたので、保健所業務は初めてでございます。いろいろ御迷惑をかけるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

深草課長

ありがとうございました。

委員の構成が変更となつてからの初回の専門委員会となりますので、委員の皆様にも、簡単で結構ですので、自己紹介をお願いできればと思います。

配付資料1として、専門委員会委員名簿をお配りしておりますので、併せてごらんください。

それでは、浅野委員長から、お願いしてよろしいでしょうか。

浅野委員長

小金井第一小学校の校長をしております浅野と申します。専門委員会の委員長を務めています。どうかよろしくお願いいたします。

深草課長

ありがとうございました。

続きまして、金井副委員長、お願いいたします。

金井副委員長

おはようございます。緑中学校校長の金井と申します。副委員長を仰せつかっております。よろしくお願いいたします。

深草課長

そういたしましたら、席次に沿って、鈴木委員、お願いいたします。

鈴木委員

保護司会から任命されました、鈴木忠良と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

たします。

小山委員 おはようございます。小金井市の社会福祉協議会から選任の小山です。よろしくお願い申し上げます。

黒須委員 小金井市子供会育成連合会の三小・緑小ブロック代表をしています、黒須といいます。よろしくお願いいたします。

深草課長 ありがとうございます。

また、事務局にも、人事異動に伴い変更がございましたので、紹介をさせていただきます。

この4月から児童青少年係長となりました、鈴木です。

鈴木係長 児童青少年係長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

深草課長 また、昨年度まで、児童青少年係長を務めておりました前田が、4月から、子どもオンブズ関係の主担当として、係長から主査と異動となっております。

前田主査 児童青少年課主査の前田と申します。昨年度まで、大変お世話になりました。

第一小学校の近くに、子どもオンブズパーソンという、子どもの権利侵害に関する相談、救済を行う事務所というか、相談室を開設して、市内の子どもの権利の守られる社会をつくっていくというところで今、業務を担っております。

今後とも、皆様のところにはお世話になることがあるかと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

深草課長 では、以上のような委員構成で進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、本日の委員会進行につきまして、会議録作成のため、録音をさせていただいておりますので、発言の際には、お名前をおっしゃっていただいてから御発言いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入りたいと思っておりますので、ここからは、委員長に進行をお願いいたします。

2 議題

浅野委員長 今年度の第1回となります、小金井市青少年問題協議会専門委員会をこれから進めてまいります。御協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日の議題は、専門委員会による調査、協議のテーマについてとなります。

3月30日に開催されました青少年問題協議会において、昨年度皆様にご意見をいただいたアンケート案を報告し、本体会議で出た意見を基にしまして、本日、文言等の整理を含めて最終決定していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、アンケートについて、事務局からの説明をお願いいたします。

鈴木係長 資料2を御覧ください。こちらの資料は、前回の専門委員会開催後に、委員の皆様からいただいた御意見と修正内容についての資料を、改めて配付をさせていただいているものとなっております。

いただいた意見を基に、こちらのアンケート修正案を本体会議に報告をさせていただきました。

本体会議で出た意見としては、大きく3つございます。

1つ目ですけれども、アンケート案の問1、問13、問14のところの設問について意見がありまして、こちらの各設問における選択肢4の回答欄が、「その他・いない」となっておりますが、「その他」と「いない」では意味合いが違うので、一つの回答としてまとめることに検討が必要ではないかという御意見が出ました。

特に、問1のその他の選択肢の1につきましては、選択肢1の「先生などの家族以外の大人」に、「その他」というのも含まれるのではないかという御意見をいただいております。

次に、2点目ですけれども、問1と問3の関係について、御意見をいただいております。

問1の設問において、家族を保護者として回答した人に関しまして、問3の設問内容が問1と重なってしまわないか、検討が必要ではないかという意見をいただいております。

最後、3つ目ですけれども、こちらも問1の選択肢について、御意見をいただいております。

コロナの影響で変化を感じた人が複数いた場合に、一方はよくなったけど、一方は悪くなったケースというのも想定されるので、複数回答にするか、最も変化があった人を選んでもらうようにするかというような検討が必要ではないかという御意見をいただいております。

3つ目に関連して、前回の専門委員会では、回答方法について、単一回答にするか、複数回答にするかの議論ができていなかったため、その検討も必要となりますけれども、事務局といたしましては、本体会議で出た意見も踏まえて、単一回答として、複数当てはまる場合がある設問については、設問文に「最も」などの文言を追記した修正案で進める方向で考えております。

事務局の修正案は、資料3としてお配りをさせていただいております、修正箇所につきましては下線部分となっております。

また、あわせて、本体会議において、保護者についても、紙での回答ではなく、ウェブ回答にしないかということで意見がありましたが、回収率をなるべく高くしたいということで紙での実施で進めていると、本体会議では説明をしましたがけれども、改めてこの方式でよいかという点についても、検討をお願いできればと思っております。

事務局からの説明は以上となります。

浅野委員長

ありがとうございました。事務局から、アンケートに関しての説明をいただいたところです。

説明にもありましたとおり、本体会議で出た意見を踏まえた修正案が事務局から示されましたので、皆様から御意見をいただき、本日、アンケートの内容を確定していきたいと思っております。

先ほど御説明の中で、問1、問13、問14の設問について、それから、問3との関係について、問1の選択肢について御意見をいただきたいところですが、その前に、まず、回答方法について、最初に御意見をいただきたいと考えます。

事務局案では、本体会議で出た意見も踏まえて、単一回答として実施したい。つまり、選択肢がそれぞれの設問に対しまして、1から4までありますけれども、その中で1つだけ回答として選ぶ。つまり、2つ以上、複数を選ばないということしていきたいと思いますが、それについては何か御意見ございますか。

選択肢1つ、単一回答ということで、それではよろしいですか。

(「はい」の声あり)

浅野委員長

ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

それから、アンケートの取り方ですけれども、本体会議においては、先ほど説明がありましたとおり、保護者についても、紙での回答ではなくて、ウェブ回答にしたほうが良いという御意見がありました。

これは本体会議でもそうですし、その前の専門委員会でもありましたが、事務局としましては、回収率をなるべく高くしたいということで紙での実施を進めていると、そのように説明しておりますけれども、それについては、御意見いかがでしょうか。

小山委員

紙での回答でいいと思います。回収率を高めるためにも、そのほうがいいのかと思います。

浅野委員長

ありがとうございます。

そのほかの方、いかがですか。

鈴木委員

私も同感です。

浅野委員長

ありがとうございます。

そのほかの方。

黒須委員

私も同じです。

浅野委員長

ありがとうございます。

渡辺委員、いかがですか。

渡辺委員

結構です。

浅野委員長

ありがとうございます。それでは、本日御出席の委員の皆様からは、紙での実施でいきたいということで御意見がまとまりましたので、そちらのやり方で、よろしくお願いいたします。

次に、アンケート項目について、先ほど御説明があったところについて御意見をいただきたいのですが、まず、問1と問13と問14の設問についてです。

それぞれ選択肢4が、「その他・いない」が設問1、設問13と14は「その他・特にない」となっておりますけれども、「その他」と「いない」、または「特にない」では意味合いが違うため、一つの回答としてまとめることについては検討が必要ということでもあります。

特に問1の「その他」というのは、問1の選択肢1、「先生などの家族以外の大人」に含まれるのではないかといた御意見がありました。

まず、この選択肢4については、いかがいたしましょうか。御意見があればお願いいたします。

黒須委員

前回の全体会で意見が出たように、4番目は、「いない」のみでいいのではないかと思います。

浅野委員長 「その他」は入れないということですね。

黒須委員 はい。

浅野委員長 そのほかの委員の方、いかがでしょうか。

「特にない」だけにするといいですかね。「その他」はなしにして、

黒須委員 13のほうですけど、これは、その他で括弧をつけて何か書くとか、そういう方法は取れないですか。

浅野委員長 事務局としてはいかがでしょうか。

鈴木係長 記述をさせるということですかね、その他にして。

保護者向けのアンケートは紙でやるということで決定していただいたので、紙でやる場合は、難しくなってしまう。

ただ、子どもの場合は今回、ウェブで実施するので、記述を設けることについては、対応はできると思います。

黒須委員 何かそういうふうにできたらいいなとちょっと思いましたので、可能でしたらお願いします。

前田主査 補足ですけれども、問13、14について、子どものほうについては、子どもの生活の場所というのが、基本的には学校と生活の家庭の環境が多いのかなと思うのですが、同じく、この設問を保護者にも取っていきまして、保護者の場合は、これは青少年問題協議会のアンケートなので、子どもにまつわるということと回答を考えていただければいいのですが、保護者の場合、例えば仕事場であるとか、そういう別の場もあろうかというところで、「その他」というのが入っていたというのが一つ。

子どものほうにつきましては、その他の場所がほかにあれば、塾とか習い事があれば、その他になるのですが、逆に何も無い、単一で今、資料3として出させていただいているものが、事務局が今回、修正した案になっていきまして、具体的には13、14で、「一番」というような書き方をさせていただいておりますが、これ全てに、特段嫌なことがなかった場合の回答が、「その他」への統一で、なくなってしまうのかなというところが悩ましく、今は原案がこのままという形になっていきます。

もし、この3つの中でということであれば、逆に、「その他・特にない」をなくして、3択にしまうこともあり得るかなと思うのですが、「一番」という書き方をするのであれば、なかった場合も想定すべきというのが、少し気になると思います。

浅野委員長 そうすると、問13、14には、「一番」という言葉を入れるというのが、資料3の修正案ですね。ただ、一番嫌なこと、一番残念なのと聞いたときに、「特にない」なのか、あるいは「その他」なのかということですかね。

どうお考えになりますか、これについては。

前田主査 ウェブアンケートのほうは、選択肢を4つに絞らなくても、可能です。ただ、保護者と比較をする場合に、比較の選択肢がばらばらになるとというところで、今は、4択のマークシートの紙でという形なので、そこに合わせて4択にしているという

ところがございます。

もし、聞きたいことが選択肢3の中までに入っているのであれば、この中で、「一番イヤなことは何ですか」で選んでもらうと、子どもには分かりやすく、保護者とも比較がしやすい形にはなるのかなと思います。

浅野委員長

例えばですけれども、13の設問で、「一番イヤなことは何ですか」と聞いたときに、選択肢1は、要するに感染症対策ですよ。選択肢2というのは学校生活に関わること、選択肢3というのは家庭生活に関わること、そうすると、学校でも家庭でもなくて、例えば習い事だとか、どこか遊びに行くこととか、そういったことというのは、それが一番嫌だという子もいますよね。そうすると、それというのは、「その他」ですよ。

子どもたちはもちろん学校と家庭だけの生活じゃないですから、特に緊急事態宣言下では、旅行等も制限されていましてから、外に遊びに行くとか家族で出かけるということを考えると、それはこの3つに入らないですよ。そう考えると、「その他」を残しておくというのも一つの案かなと思いますけれども、いかがでしょうか。

同じように、設問14については、中止や縮小が一番残念なことは、学校の行事、家族の行事、地域の行事と、それ以外に、例えば、プロ野球の試合に行きたかったけれども、中止になってしまったとか、自分の好きなアイドルのコンサートへ行きたくかったけれども、中止になってしまったとか、そういうものは、学校でも、家族でも、地域でもないですよ。もっと広いところのイベントですよ。それを一番残念に思っている子というのも、恐らくいますよね。

中3ぐらいになると、子どもだけでコンサートへ行くでしょう。そうすると、好きなアイドルのコンサートへ行けなくなってしまったら、それは学校や家族よりも残念と思うでしょうね。それは「その他」というふうにも思いますが、いかがでしょうか。

前田主査

例えば問13について、今の委員長の意見も反映させる選択肢として、選択肢3の書き方を、「外出を控えるなどの学校生活以外での制限」として、ここにその他が入ってくるような意味合いに修正し、「特にない」を選択肢4として残すというのはいかがでしょうか。

浅野委員長

なるほど。そうですね。「学校生活以外」というと何でもありですよ。そうすると、それにも入らないのは「特にない」となりますか。

そうすると、14も同じようにできませんかね。学校、家族、それ以外の行事とか、あるいは、それ以外のイベントとか。

前田主査

そうですね。

浅野委員長

当然、中3になって、6年生もそうですけれども、特に中3なんかは行動範囲が広がりますから、地域では済まないですよ。それを含めて選択肢3にしちゃえば、同じように、あとは「特にない」とできるような気はしますけれども、いかがですか。

皆さんうなずいていらっしゃいますけど、それでよろしいでしょうか。

(「結構です」の声あり)

浅野委員長 ありがとうございます。そうすると、設問1については、「いない」ということですね。

設問13については、選択肢3を少し広げて変えた上で、「特にない」を選択肢4にする。

設問14についても、選択肢3をもう少し広げることによって、選択肢4は「特にない」とするということによろしいですか。

(「結構です」の声あり)

浅野委員長 では、そのように事務局の方でお願いします。

鈴木係長 承知しました。

浅野委員長 ありがとうございます。そうすると、もう一つ、次は問1と問3との関係というところが本体会議の意見にあったのですが、設問1と3を見ていただきたいのですが、設問1において、「家族」、つまり選択肢3を、保護者としてというか、保護者と考えて回答した人に関しては、設問3の内容が1と重なってしまわないかということですが、これについてはいかがですか。

これは重なりますかね、逆に言うと、重ならないような気がします。これはどういう経緯で重なってしまうという御意見でしたか。

前田主査 3月30日の本体会議のときに出た意見としましては、まず、問1、問2が、アンケートの中に入ってきた理由としては、コロナ禍で色々な制限があって、子ども同士で友達と遊ぶこととか、地域の大人に触れ合うこととか、あとは、家族の中でも、様々なリモートワーク、在宅勤務などの変化があったであろうというところで、子どもを取り巻く全体の人間関係の変化の中で、どこを一番、子どもたち本人、もしくは保護者は、影響があると考えているのかというのが、問1、問2の趣旨でした。

そこも全体として聞きたいけれども、特に家庭の環境について、詳しく聞きたいというところで、3、4、5が出ているというようなことになっております。なので、総括的なところとフォーカスを当てたところという形で、こちらとしては設定をしてきたという経過がございました。

その中で、3月30日の本体会議では、選択肢3、「家族」と書いてあるので、兄弟間もあるでしょうし、もちろん保護者、あとは祖父母という形もあるでしょうが、この中のお父さん、お母さんをイメージして、一番変化があったと思って回答を3とした場合、設問2で回答するのは、コロナが理由でいい方向、悪い方向の選択肢1、2を選んだ人は、同じ問題を、「コロナ前と比べ、あなたに対する保護者の態度は変わりましたか」が、いい方向で変わった、悪い方向で変わったが、同じように感じるのではないかなというのが、御意見の趣旨だったかなと思います。

同じコロナ禍と比べている点で、総括的なところと回答がかぶってしまう子どもは、確かにいるのかなと思いますが、聞きたいものというか、「家族」をどのぐらいの割合の子が選ぶのかというのが分からない部分があるので、皆さんがどう考えられるかなというところかなと思います。

浅野委員長 いかがですかね。

前田主査 重なってしまった場合についても、それで、回答を分析する上で、何か不都合が

あるかという視点で言えば、特段、不都合はなく、総括的な部分では、子どもの中では、やっぱり友達関係が多い子がいたよね、家族関係での変化が一番影響あったよねという分析が問1、問2でできて、問3以降は、では家族の中だけフォーカスしてみた場合には、どういう変化があったかという分析は、十分に可能かなと思いますので、これからの調査分析という観点では特段問題ないのかなと、事務局としては考えております。

浅野委員長

子どもの側でどう答えるかは、先ほどの13、14もそうですが、同じように考えたときに、コロナ前と比べて、回答者との関係に変化を感じというのは、まず、家族は家の中でマスクをしていないですし、普通に接していたと思います。

ただ、友達とくっついて遊んじゃいけないとか、あるいは、マスクは外してはいけないとか、家族以外の大人という、例えば先生とも、それまではもっと近くで話していたのが、距離を取るようになるとか、やっぱり変わってくるというのが、家族以外に選択肢が1つだと、多いのではないですかね。

そうすると、今、事務局が言われたように、ほかのものを選ぶため、重なってこないという気もするのですが、いかがでしょうか。

鈴木委員

重なっても分析に影響はないとおっしゃっていましたが、それだったら問題ないと思います。

浅野委員長

ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。

渡辺委員

私も、1番は総論的に見ているものであって、3番は家族に焦点を当てられたということであれば、逆にいい分析ができるのではないかというふうに考えて、このままでいいと思います。

浅野委員長

ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。

黒須委員

同じくそのように思います。

小山委員

私も同じです。

浅野委員長

ありがとうございます。そうしましたら、特に分析に影響ない。むしろ総括的なものと特化したものという違いがあって、明確になるところも出てくるだろうという御意見がありましたので、このままということで、よろしく願いいたします。

あとは、ほかにありましたか。

鈴木係長

一応、個別の検討議題は以上になりますので、あとは全体的に何かございましたらというところになります。

浅野委員長

あとは、先ほど改訂案で出された、「一番」というのを入れていくということは、これでよろしいですかね。

(「結構です」の声あり)

浅野委員長

明確になるところはいいですよ。最も感じる事というのが、資料3では家庭に入っていますので、それも生きということで、残します。

最後は、全体を通して御意見などがありましたら、お伺いいたしますが、いかがでしょうか。

黒須委員

1番の選択肢4の「その他」は要らないのではというので、私は、「いない」だ

けでいいと思っているのですが、それはどうですか。

浅野委員長

1番は、選択肢4は「いない」です。そのように先ほど。

黒須委員

すみません、聞き損なっていました。

浅野委員長

1番は「いない」で、13、14はそのまま。

黒須委員

すみません。あと、11番の選択肢4の「その他」という、これは必要なのかなと思ったのですが、どういうことを想定して、「その他」と入れているのかなと思いました。

浅野委員長

何かありますか。

前田主査

こちらの問11の「その他」について、想定としては、特段思わないというか、これを考えたときに、学校現場とか小さいところの問題なのか、社会的なものなのかというところで、一度議論になったかなと思っております。

問10については、大きな社会的というか、国内的なものも含めて、コロナ対策を子どもから見たらどうなのかというのを、満足か不満かの4択で出させていただいて、問11については、子どもとして、大人を評価してもらうという意味合いで設定をしているものになります。

評価をするというところで、例えば子どもは、大人だけは十分だけど、子どもだけが甘いとか、もしくは、特に何も思わないとか、そのぐらいかなと思いますが、要らないと言われれば要らないのかなという気も、確かにします。

浅野委員長

選択肢4について、いかがですか。

渡辺委員

事務局のほうで、3つでよいのであれば、別に、「その他」というのは要らないのかなとは思いますが。

逆に言うと、あるところに子どもたちがみんな集中しちゃうので、いい分析ができないという話なので、もしこの3つで見たいという話であれば、「その他」を消したほうが、逆に言うと、いいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

浅野委員長

ありがとうございます。学校でも毎年度後半に、保護者に学校評価のアンケートを取るのですが、「どちらでもない」というのを作ってしまうと、いっぱいついてしまう。

よい、どちらかというといよい、どちらかというとい悪い、悪いと4択にすると、分析がしやすいですけど、真ん中に、「どちらでもない」が入ってしまうと、結構それについてしまう。

そうすると、あまり参考にならないというか、今の御意見を聞いていて、それと結びつけて考えていました。

いかがでしょうか。

小山委員

今のお話のとおり、削除していいと思いますけれども、「その他」ですね。そうして見ますと、例えば15とか、23とか、そこにも「その他」とありますが、その辺はどうでしょうか。

例えば15も、「その他」を削除していいような気も、今の御意見を聞いていると、あるのですが。

浅野委員長

15で言いますと、ゲームをする時間のルールを決めている、決めていない、確かにこれはどちらかという、決めていないか、決めていないかですね。

小山委員 そういうことですよね。

浅野委員長 「その他」って、何があるのかなと。

黒須委員 すみません、15の設問ですけれども、私は、4択に自分で決めているというの
も入れていいかなと思ったのですが。

小山委員 それは、「決めている」とは違うでしょうか。「自分」を入れるのであれば、ほ
かの設問でも、そのような文言を入れたほうがいいようなものも出てくるような気
もするのですが。

前田主査 今の設問15につきましては、設問の中で、お家の人と、「で」は要らなかった
ですね、失礼しました。お家の人とスクリーンタイムのルールを決めていますか
という設問になっています。

 なので、黒須委員がおっしゃるとおり、自主的に決めているパターンについては、
確かに現在は選択肢の中に入っていないのかなと思います。

 一方で、今、小山委員から御指摘があったように、さらっと読むと、ルールを決
めているか、決めていないかというだけの設問に見えてくるというところで、例え
ばですけど、家族と決めている、自分で決めている、以前はあったが今はない、決
めていないというような4択ということも考えられるか、見やすさ、回答のしやす
さというところでは、そういうふうに整理してもよろしいのかなと思います。

浅野委員長 そうすると、設問15の中で、「お家の人と」というのは要らないですよ。

前田主査 そうですね。

浅野委員長 あなたはスクリーンタイムのルールを決めていますかといったときに、自分で決
めているのか、家の人と相談して決めているのかというふうにすると、設問の中か
ら「お家の人と」を取っちゃうと、今、事務局が言われたことと整合性が取れる。

 設問15についてはいかがですか。今の事務局案でいきますか。

 （「結構です」の声あり）

浅野委員長 では、そのように変えて、15の設問を作っていたきたいというところであり
ます。

 それ以外のことについてはいかがでしょうか。

小山委員 23も説明していただけますか。23のその他のところですけども。

前田主査 こちらの23問目につきましては、まず、22問目に付随しています。あなたは
勉強のために家や学校でタブレット、パソコンを使うのが好きですか、その好きな
理由を教えてください。好きな理由に、パソコンを使わない授業と比べて楽しい、
もしくは、触ること自体、操作すること自体が楽しい、自分のペースで進められる
のが楽しい。

 家だけであれば幾つか、もしくは、学校の中だけのことであれば幾つかという選
択肢に絞っていくことができるかなと思ったのですが、こちらは、コロナ禍におけ
るタブレットの利用が増えた、減ったに合わせて、それが、本人が好きで使ってい
るのか、嫌いで使っているのかという問題に付随して、好きな理由を聞こうとい
うところで、使う環境がまず限定されていないというところでは、この選択肢に入
ってこない回答があるかなというところで、「その他」が入っているというのが今
の整理になっています。

浅野委員長
前田主査

その他で、例えば一つ、二つ、何か考えられる文言というのはありますか。

例えばですけれども、文字を書くのが苦手で、文字を打つだけで回答ができるから好きだとか、楽しいではなくて、授業の中でそういう利点があることや、読み上げソフトとか、特に英語の授業とかで発音を聞きながらできるのが、楽しいとかではなくて、そういう便利という意味で好きだという場合には、今は選択肢が、楽しいから、楽しいから、学習を自分のペースでという形で区切っているの、「その他」というところに入って来るかなというところですよ。

浅野委員長

今お聞きしながら、ちょっと思いついたのは、小金井市も小・中学校で1人1台、Chromebookを貸与されていますけれども、明らかに、授業を見ていて思うのは、ジャムボードというものがあるのですが、そこに意見をどんどん打ち込んで、それを子ども同士、見合う。

そうすると、何がいかというと、手を挙げて発言するのが苦手な子でも、そこに打ち込んで、それをお互いに見合いっこできるようになるのですね。そうすると、ジャムボードを通した意見交換がすごく広がりました。明らかにどの学級も、低学年からそうです。

慣れてくるとぼんぼん打ち込んでいますね。それがぱっと見られるので、それを教室の大きなテレビにつなぐと、今度、グループだけじゃなくて、全員でそれを見合いっこできている。それに対してまた意見を言えるという、非常に意見交流が広がりました。

これは、Chromebookを使っている一つの大きな特性だと思うのですが、そういうことを考えると、人前で意見を発表するのが苦手だけど、これによってできるようになったというような子は、どこに入るかというと、「楽しい」ではないだろうし、「自分のペース」でもないだろうけれども、意見を言いやすくなった、そうするとやっぱり、「その他」ですよ。

そういったところは中学校でどうですか。

金井副委員長
浅野委員長

そうですね。ありますので、そういうのもやっぱり。

特に中学生になると、なかなか自分から手を挙げて発言しないですよ。だけど、ジャムボードを使うと結構、中学生なんか相当意見を書き込みますよね。

金井副委員長
浅野委員長

そうですね。

学年が上になっていくほど、使い勝手がいいということもあると思います。小学校も高学年に行くに従って、なかなか挙手して発言することは少なくなりますので、そうすると、この3択には当てはまらないですよ。

ということは、「その他」があってもいいのではないかというふうに思ったのですが、皆さんはどうでしょうか。

小山委員

それでいいと思いますけれども、なかなか私、実態が分からないものですから、そういう意見交換というのが現実に行われているということは、ちょっと私としては、一方で驚きというか、機械を通じてばかりでやっていくのもどうかというのは、ちょっとそんな感じもいたしました。

設問については、それでいいと思います。

浅野委員長

なかなか学校の授業の様子というのは、学校公開の機会も減っていますから、多

くの人に見ていただく機会は少ないですけれども、打ち込んだジャムボードでの意見交換と、もちろんグループの中で話合いというのは、言ってみれば、両方使っているということですね。共有しているというところが一般的ではあると思います。

特に、マスクをつけていれば、話合いというのはやっていいというふうに緩和されてきていますから、いつかは、マスクをしても、何人かの人数の話合いはよろしくないというようなこともありました。今はそれも相当緩くなっていますので、両方使えるというのは、学習方法としてのこの期間の大きな進化だなというふうに思います。

そのほかの方は、御意見いかがですか。

そうすると、選択肢4として、「その他」を残しておくということよろしいですか。

(「はい」の声あり)

浅野委員長 では、そのようにお願いいたします。

前田主査 関連してなんですが、問23につきましては、「その他」は記述もさせるという形、保護者のほうは、本当にマークシートの隅っこぎりぎりになってしまうので、ちょっと難しいですけど、ウェブでやる小学生、中学生本人については、その他の理由も記載してもらおうという形でよろしいですか。

(「結構です」の声あり)

浅野委員長 では、そのようにお願いいたします。

それでは、そのほか、全体を通して何か御意見がありましたら、お願いします。

黒須委員 20番と22番の選択肢の順番ですが、20番は、「特にない」が最初に持ってきてあって、普通、「特にない」が一番最後がいいかなと思のですが、最初に持ってきたというのは、何か訳があってここに持ってきたのかなと思ったのと、22番のほうは、1番が「好き」で、次が「嫌い」で、「どちらでもない」の順番かなと思ったのですが、その点、どうでしょうか。

浅野委員長 事務局、いかがですか。

前田主査 特段、意味はございません。皆さんの御指摘のとおり、直させていただければと思います。

確かに、選択肢の順番というのは重要なと思っておりまして、例えば設問1も、先生など家族以外の大人、「以外」とつくのは大体、後ろのほうにあたりするのかなと思ったり、いろいろございますので、皆さんの話合いの中で、順番も検討いただけると助かります。

取り急ぎ、先ほどの問20につきましては、好意的なものから並べるというところで、健康が阻害されていない状態をノーマルとして考えた結果、こういった並びに一応、なっていたのですが、特段、これにこだわりがあるわけではございませんので、変更していただいて結構です。

浅野委員長 いかがでしょうか。

渡辺委員 22番のほうは、ストレートに「嫌い」が前に来たほうが、ほかの区分と同じように、6、7、8、9とか、その辺も同じようになっていますので、統一されたほうがいいかなと思います。

20に関しましては、事務局がそういうスタンスであるのであれば、そこは、どちらかという、視覚に入る上のほうからといいますか、画面というのは上から来るものですから、子どもたちも上から読むという癖があると思うので、特にないという話であれば、先に来るとそこで押してしまうと思いますので、そういう意味で、やるのであれば今のままだでもいいのかなと。

事務局がどういうふうに考えているかで変わるとは思いますけれども、事務局がそういうスタンスであれば、それでいいと思います。何かしらの方式を決めてあれば、説明はつくと思いますので。

浅野委員長

事務局としてはいかがですか。

前田主査

こちらの設問の原案となったのが、黒須委員の御意見だったかと思っております、黒須委員からも御意見をちょっと伺わせていただければと思うのですが。

黒須委員

私はどちらかという、やっぱりこれだけインターネット、スマホとかそういう機器を使うようになってきているので、絶対に体に変化が起こっているはずだと思っているので、どちらかという、「特にない」は後ろのほうに持っていきたいなと思っているのですが。

前田主査

ありがとうございます。そうですね、大人向けのアンケートであれば、そういった変化を年齢とともに感じるが多くなったり、体調に敏感だったりというところで、どの変化が現れていますかという意味では、3つ並べて、その他、特にないという形かなと思います。

それが、小学生とか中学生、子ども向けになった場合、熱があっても元気だったりするという私の中の子ども像がありまして、不調を自分で感じづらいのかな、ニュートラルな状態は、「特にない」なのではないかなというところで、こうさせていただいたというところで、年齢による差異、例えば、保護者向けに合わせるよということであれば、確かに、黒須委員のおっしゃるような設問の書き方がよろしいかなと思います。

今のところの20番というのは、特にないがスタンダードだけれども、あるとしたらどうでしょうということを聞きたいのかなと事務局としては思い、「ある場合は最も感じることを選んでください」という書き方にさせていただいています。

なので、まず、これは2つの設問になっていて、体調に変化を感じることがありますか、ある、ない、特にないか、ある、あるのであればどれですかという順番の並びになっているので、もし順番を並べ替えるということであれば、設問自体を少し変えるのがよろしいのかなと思います。

浅野委員長

説明の趣旨はよく分かりました。それで、小学生や中学生を対象とした場合に、本校においても、スマホやネットをやり過ぎて体調を崩したというのは聞かないですね。コロナに感染した、あるいは濃厚接触者というのは、もちろん、いつかは多かったですけど、今はほとんどいませんけれども、こういったことによって体調を崩して休むというのは、毎日、養護教諭がつけている保健日誌で、保健室に来た子たち、あるいは欠席した子の症状を全部書いてありますので、全部、必ず目を通してありますが、ちょっと記憶にないですね。

そうすると、「特にない」とつける子が多いのではないかなということは思いま

す。

中学生はどうか。

金井副委員長

ハードに使っている子どもの場合には、やっぱり寝不足になったぐらいの話は出てくると思います。それを選択肢から選ぶとなると、寝不足が原因で疲れを感じる、だるさを感じるというのは出てくるだろうと思いますが、結局は「特にない」にする子が多いのではないかと思います。

前田主査

事務局の補足で、よろしいですか。

「特にない」という書き方が、選択肢4のよう、一番後ろにくるものであるということであれば、選択肢1の書き方を、「体調の変化は特にない」のように、前に来ていても違和感のないような書き方にするというのはいかがでしょうか。

浅野委員長

いかがですか。

(「結構です」の声あり)

浅野委員長

では、その一言を入れていただくことで、この順番を変えないと。

それから、先ほど22番についての御意見もありましたが、それ以外も、ある、なし、変わらないという順番でもし統一するのであれば、22番もそうしたほうがいいですし、それから、5番もそうですよね。居心地がよくなった、あまり変わらない、悪くなったというのは、もし、悪くなったを先に持ってくるとか、そこはもう一回、事務局でも、全体を通してざっと見直しをしていただいてもいいですか。もしかしたら、ほかにもあるかもしれません。

鈴木係長

分かりました。

浅野委員長

基本線としては、要するに、ある、なし、どちらでもないというところで統一をするというところがよろしいのではないかというふうに皆様の御意見を伺ってまいりましたので、それは確認、修正をしていただければと思います。

そのほかはいかがですか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

浅野委員長

それでは、以上で、アンケートについての検討は終わりにいたします。御協力ありがとうございました。

それでは最後に、今後の流れについて、事務局からの説明をお願いいたします。

鈴木係長

本日、協議いただきましたアンケート案につきましては、もう一度、事務局のほうで最終的な見直しをさせていただいて、正式なものを作成させていただきます。

軽微な修正がもしかしたら入るかもしれませんが、修正があった場合には、大変申し訳ないですけれども、委員長と副委員長のお二方に御確認していただいて、一任という形を取らせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「結構です」の声あり)

鈴木係長

ありがとうございます。

アンケートの実施校についてです。

対象の学年については、小学校6年生と中学校3年生という形で決定しております。実施校については、6月の校長会で協議の上、決定をするという形を取らせていただければと思います。

実施校が決まりましたら、その実施校の6年生及び中学校3年生と保護者を対象

に、7月上旬をめどにアンケート用紙を配付して、アンケートを実施する予定とさせていただきます。

アンケート実施後は、9月までに事務局のほうで集計作業をさせていただきます、10月頃、今年度第2回目の専門委員会を開催させていただきます、その場で結果の分析を行う形にしたいと思っております。

その後、年度内にあと2回程度、専門委員会を開催させていただきます、分析を踏まえた啓発内容を検討いたしまして、リーフレットの案を作成する流れとさせていただきます。

完成したリーフレット案につきましては、令和5年3月に開催予定の本体会議のほうで報告をする予定となっております。

その後、本体会議で出た意見を踏まえまして、また必要な修正を行ったものを、5月にリーフレットを印刷して、6月末頃、リーフレットの配付というスケジュールで進めていく予定となっておりますので、よろしく願いいたします。

事務局の説明は以上になります。

浅野委員長

ありがとうございます。

以前、出されたことと思います。ちょっと確認ですけれども、アンケートを実施する学校は、小学校、中学校、それぞれ何校ですか。

鈴木係長

各2校ずつになります。

浅野委員長

2校ずつ。そうすると、6月の校長会で、どの学校がやるかということを決定して、まず事務局に報告するということにいたします。

そのほか何か、今の説明に対して御質問等ございますか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

3 閉会

浅野委員長

それでは、本日、1時間程度の会議でありましたけれども、様々御意見をいただきまして、ありがとうございます。

以上をもちまして、今年度第1回の小金井市青少年専門協議会専門委員会を閉会といたします。

本日はありがとうございました。